

研究課題	ICT を活用したふるさと学習の継承と発展
副題	～図書館のデジタルアーカイブ化を通して～
キーワード	
学校/団体名	公立養老町立笠郷小学校
所在地	〒503-1382 岐阜県養老郡養老町船附 1150
ホームページ	<a href="http://www.yoro-edu.jp/es-kasagou/">http://www.yoro-edu.jp/es-kasagou/</a>

## 1. 研究の背景

本校では、平成 22 年度から「進んで図書館を利用し、学習に生かす力の育成」を図書館教育の目標とし、ふるさと学習（総合的な学習の時間）を中心に、全ての教育課程と関係付けた図書館教育の推進に取り組んできた。教科学習・特別活動など教科横断的に学習活動を展開することのできるよう独自の年間指導計画を作成している。これまで、学校司書を中心に全職員、保護者、PTA、地域が連携し、「図書館祭り」や「親子読書」等に取り組んできた。その結果、昨年度、岐阜県西濃地区図書館コンクールにて最優秀賞を得た。貴助成を得て、よりデジタルアーカイブ化に取り組むことで、コロナ禍においても、地域人材から多くを学び、ふるさと大好きな児童を引き続き、育てていきたいと考えた。

## 2. 研究の目的

本校は、これまで地域の歴史・文化を学ぶ「ふるさと笠郷」学習に 10 年間継続的に取り組んできた。地域のシルバー人材と地域図書を活用し、当校校区内に昔から伝わる伝統舞踊や文化財を児童は学習してきた。しかしながら、シルバー人材の高齢化や若手職員の増加に伴い、せっかく地域の優れた学習情報があるにもかかわらず、その伝達・継承が難しくなっている。これは、地方における今日的な教育課題である。そこで、本実践では、これまでのシルバー人材の知見や地域図書といった学習情報をデジタル化し、デジタルアーカイブという形で保存することで、継続的に児童が自ら興味関心をもって地域の文化や伝統を学ぶことができるようにすることを目指した。その際、学校図書館がふるさとを学ぶための学習情報支援センターとなり、児童や教職員を主な対象として、有効な学習情報を適時提供することができるようにした。

## 3. 研究の経過

新聞、インターネット端末など、児童の多様かつ最新の情報を得られる学習環境を情報をデジタルアーカイブ化し、全学年の様々な教科等の授業での計画的な学習情報活用を促す。

例えば、総合的な学習の時間である地域学習「ふるさとオリエンテーリング」では、図書を利用して、地域の歴史・文化・自然を地域の方と一緒に巡る。この学習では、地域からのたくさんの寄贈図書があり、地域図書コーナー、歴代の調べ学習ファイル、地域学習新聞等、図書を活用した多くの学習成果を生み出している。これらを、アーカイブ化し、コロナ禍における児童の主体的な学習を意図的に計画した。

令和 2 年度中に、所属校において一人一台のタブレット端末が整備されたこと（岐阜県養老町

GIGA スクール構想) を考慮し、本稿では、各自の調べ学習テーマを設定したり、ウェブ会議を活用した他地域とのふるさと学習の交流を行ったりするなど、プロジェクト型・アウトプット型の学習活動を展開した。

その他、新聞、インターネット端末など、児童の多様かつ最新の情報を得られる学習環境を情報をデジタルアーカイブ化し、全学年の様々な教科等の授業での計画的な学習情報活用を促したり、他地域の学校図書館や書店等と図書館の魅力についてのオンライン講演会を行ったりした。

#### 4. 代表的な実践

##### <図書館の常時活動>

毎週月曜日と金曜日を朝読書の時間として位置づけている。各学年の推薦図書やおすすめ本を決め、読んだ図書の一言感想を書くようにしている。全てのおすすめ本を読んだ児童には、頑張り賞の配付をしたり、学級単位で「推薦図書の木」のポスターを掲示したりしている。おすすめ本の掲示等は、季節毎にアレンジしている。



「各学年の学習に活用できる図書リスト」を活用し、各教科の学習の中で図書館を積極的に活用できるようにしている。これらの活動により、図書標準の充足達成率（128%）や各教科での学習活用率は非常に高い。（例：社会科の歴史新聞等）

##### <児童が中心となって行っている図書館活動>

上記の常時活動に加え、図書委員会が年2回の図書館祭りを行っている。他分類の読書、楽しい読書活動を推進するために、児童が主体となって行っている図書館祭りは以下の通りである。

図書館祭り→大型絵本読書パズル、ビブリオバトル、図書分類スタンプラリー、図書分類おみくじ、図書委員おすすめの本コーナー、多読賞の表彰、100冊達成カードの配付、読んだ本の良さ見つけカード、貸し出し冊数1・2万冊記念品の贈呈。



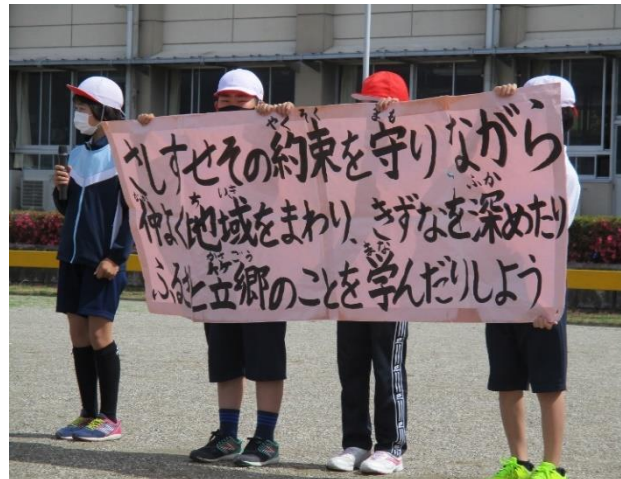
<ふるさと学習に関わる活動>

学校図書館と、町立の公共図書館、町内小中学校と連携して図書の貸借を行っている。また、留守宅家庭や町内美術展とも連携して、季節の図書掲示物や低学年の図工作品の題材提示として図書を利用している。総合的な学習の時間である地域学習「ふるさとオリエンテーリング」では、地域の図書資料から、地域の歴史・文化・自然を学んでいる。図書から学んだ内容を実際に地域の方と一緒にウォーキングしながら本物に触れる機会ともなっている。この学習では、地域からのたくさん



さんの寄贈図書があり、地域図書コーナーの設置、歴代の調べ学習ファイル・地域学習新聞の発行等、多くの学習成果を生み出している。

例年、地域を異学年で歩いて、ふるさとについての理解を深める学習「ふるさとオリエンテーリング」を行っている。本年度は、6/5(土)初夏の空の下、ファミリー班でふるさとオリエンテーリングを実施した。今年、本校の校区の栗笠・船附・上之郷地区の探検を行った。6年生はリーダーとして、メンバーの表情を見ながら励ましの声をかけたり歩くスピードを調節したりして、心配りをしながらの道案内をした。1年生はじめ、どの子も長い距離を協力しあいながら歩ききることができた。ゴールしたときの達成感に満ちあふれた姿が印象的だった。また、地域の歴史や寺社に触れ、より一層地域への愛着や誇りを高めることができた。



<デジタルアーカイブ化の取組①>

上記の図書館教育の実践に加え,本年度は,デジタルアーカイブ化に取り組んだ。例えば,本校で毎年10月に行っている「ふるさと学習発表会」では,コロナの影響で,例年通りの実施ができないからこそ,各学年でつきたい力を明確にし,できるは何かを考え,外部の先生に来校頂いたり,学習内容をデジタルアーカイブ



化したりした。それらを活用して,ふるさと学習の成果を各学年でふるさと学習コーナーとしてまとめたり,下の学年に発表したりして,他学年の児童や保護者,地域の方に,学習の成果を発表した。



<デジタルアーカイブ化の取組②>

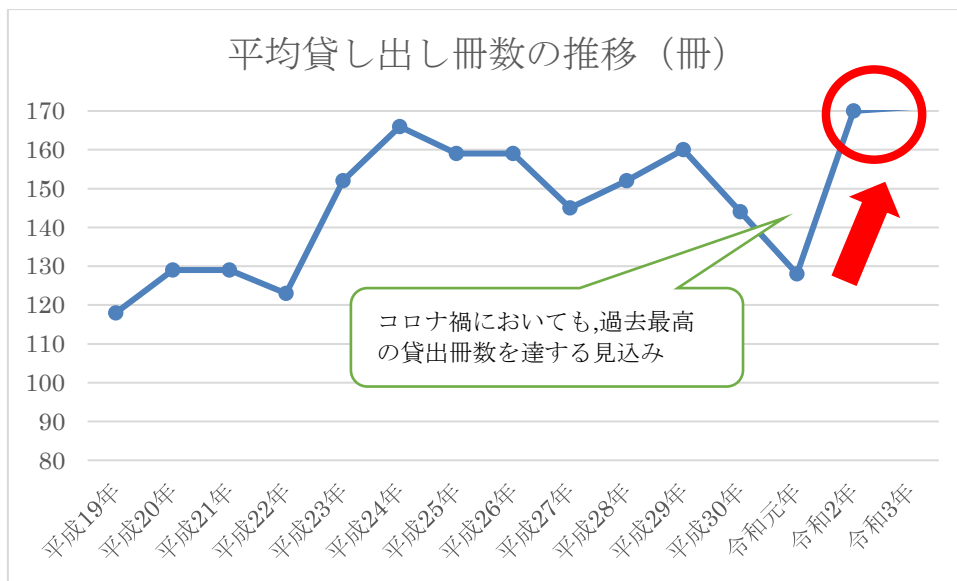
コロナ禍においては,三密を避けながらの図書館活動が必須となった。そこで,図書委員会活動として,児童の読み聞かせのムービーを作成した。作成したムービーは,巨大スクリーンに映し出し,コロナ禍における工夫した読み聞かせを行うことができた。その結果,高齢の地域ボランティアの方との間接的な交流を行うこともできた。

その他に,先進的な取組を行っている書店との交流会を行うこともできた。



## 5. 研究の成果

上記のように、本校では、学校図書館が全ての教育活動の中心となって、継続的な実践に取り組んできた。毎年実施している年間貸し出し冊数の平均を比較すると、約 150 冊が継続している。令和 2 年度からは、新型コロナウイルスの影響で 4・5 月の休校や様々な学校行事の取りやめ等があったにもかかわらず、平均貸し出し冊数は、コロナ禍前よりも増加し、年間を通した貸し出し平均冊数は過去最高を記録する見込みである。また、本年度実施した児童へのアンケート調査では、「地域をよくするために何をすべきかを考える」70%（全国平均 18.9%）、「読書は好きですか」80%（全国平均 44%）と全国平均を大きく上回る結果となった。



## 6. 今後の課題・展望

- ・今後、発信の段階で、パイロットの線の（一部の自主的な児童の参加する）取組から学校全体に広げていく面の（学校全体の児童が参加する）取組に広げていくための具体的な手立てを考えた

- ・次年度は、校区内の大野地区でふるさとオリエンテーリングの実施予定であり、継続的な実践を行っていく。

- ・デジタルアーカイブ化した教材は、学校のデータフォルダに保存している。本校でのふるさとオリエンテーリングは、校区内を 3 地区に分け、3 年 1 サイクルで行っている。本年度蓄積したデジタルデータは、3 年後のふるさとオリエンテーリングで活用できるように、適切なデータ管理・保存を行い、今後のデータ活用の先進事例をつくっていく。

- ・今後は、さらにウェブ会議を用いた遠距離での図書活動交流会を企画している。例えば、昨年度岐阜県西濃地区最優秀賞同士の図書館司書による活動交流会、図書委員会児童による委員会活動交流会など、他地域、他県、他国とのつながりを生み出し、さらに他の学校図書館活動に応用できるような指導計画を立案していく。また、児童の情報リテラシーを高めるため、これまでの教材等を「ふるさと学習アーカイブ」としてさらにデジタルアーカイブ化作業を推進する予定である。

## 7. おわりに

本実践に関わって、笠郷小学校の多くの学校ボランティアの方々はじめ関係者の皆様のご尽力を賜りました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

## 8. 参考文献

- ・まるばやしさわこ「どんどんどんぐり工作」汐文社 2018
- ・岩藤しおい「森の工作図鑑」いかだ社 2006
- ・横山正「かんさつ名人になろう！①」ポプラ社 2013
- ・もりとしひこ「トマトの絵本」農文協 1997
- ・養老町教育委員会「ふるさと養老」2017
- ・養老町教育委員会「養老博士になろう」養老町教育委員会 2017
- ・久保田稔「写真でたどる木曾三川いまむかし」風媒社 2012
- ・斎藤憲治「くらべてわかる淡水魚」山と溪谷社 2015
- ・石谷孝佑「お米なんでも図鑑」ポプラ社 2013
- ・関慎太郎「田んぼの生き物400」文一総合出版 2012
- ・川内美彦「みんなのユニバーサルデザイン」学研教育出版 2013
- ・徳田克己「ユニバーサルデザインとバリアフリーの図鑑」ポプラ社 2013